



へきけんニュース

平成25年8月29日発行 第47号

☎0154-44-3291 FAX0154-44-3292

ホームページ

<http://hekiken.kus.hokkyodai.ac.jp/>

電子メールアドレス

kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

《目次》

- ・ へき地教育研究支援部門 センター員の紹介
- ・ 「へき地教育研究計画」研究テーマ一覧
- ・ HATOプロジェクト(へき地)の進捗状況

1. 平成25年度 へき地教育研究支援部門体制・新センター員等のご紹介

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
センター長	眞田 雄三	理事	センター員	竹本 克己	旭川校
部門長	八木 修一	釧路校		戸田 竜也	釧路校
主任センター員	○川前 あゆみ	釧路校		○中川 雅仁	釧路校
センター員	前田 賢次	札幌校		廣田 健	釧路校
	○阿部 二郎	函館校	共同研究員 (へき地教育アドバイザー)	梅木 登喜雄	札幌校
	根本 直樹	函館校		宮武 一典	旭川校
	小出 高義	旭川校		松野 孝	釧路校
	小谷 克彦	旭川校	事務担当	川瀧 将之	総務課
	坂井 誠亮	旭川校		原 愛子	釧路校

《新センター員等紹介》

釧路校 川前あゆみ 主任センター員 平成25年5月1日付兼務発令

平成20年11月からセンター員、今年5月から主任センター員を務めています。全国的な学校統廃合が進む中で学校・地域づくりに関心があります。へき研部門業務の柱の一つであるへき地校体験実習では、学校現場や教育行政、地域の協力を得ながら推進しています。

釧路校 中川雅仁 センター員 平成25年6月1日付 兼務発令

釧路校勤務10年目になります。専門は物理で、今は電磁気学などの物理の基礎的な分野に興味を持っています。へき地教育で物理に関する事柄を扱う場合には何かお役に立てることがあるかもしれません。現場では実験や理論で困ったことや、やってみたいけどできないことなどが多々あるのではないかと想像しています。

函館校 阿部二郎 センター員 平成25年7月1日付 兼務発令

附属函館中学校勤務12年の後、配置転換で函館キャンパス勤務14年目です。現在は函館校の人間発達専攻教育分野で教職論と各種の教育実践論と関わる授業科目を担当しています。本来は教科教育学が専門で、技術教育史がライフワークです。

2. 平成25年度「へき地教育研究計画」は以下のテーマが採択されました。

へき地教育研究支援部門の研究推進にあたり毎年募集している「へき地教育研究計画」には11テーマの応募があり、審議の結果全テーマが採択されました。

研究成果は『へき地教育研究』研究紀要第69号に掲載される予定です。

氏名	所属	研究領域	研究課題
武田 泉	札幌校	地域研究	道内・道外地方部への教育旅行の実態把握と地域振興効果-大震災の影響を考慮した検討-
阿部 二郎	函館校	基礎研究	北海道のへき地中学校における美術科教育実践環境の実態調査研究-教科「美術」の正規免許状所持教諭の配属実態-
高橋 伸幸	函館校	基礎研究	主体的学習を生かす複式授業の環境設計(1): 言葉への見直しを引き出す作図環境
小淵 隆司	釧路校	基礎研究	へき地・小規模校に在籍する児童・生徒の保護者のライフヒストリーに関するナラティブ・セラピー文化の質的検討
玉井 康之	釧路校 教職大学院	基礎研究	へき地小規模校における若手教員の研修と成長
小野 恭子	釧路校	基礎研究	生活時間調査から見る道東地区における小学生の生活実態
二宮 信一	釧路校	実践研究	障害のある子ども及びその「きょうだい」支援のための地域資源の創出の意義 -標津町サロンときわ「サマーキャンプ」の実践から-
平岡 俊一	釧路校	地域研究	小規模地域での協働型環境まちづくりにおける「コーディネーター組織」の役割・意義とその担い手に関する研究
宮前 耕史	釧路校	地域研究	へき地・小規模校における地域伝承文化教育活動に関する研究(4)
福江 良純	釧路校	地域研究	釧路市における彫刻教育活動の史的調査および教育方法に関する基礎的・理論的研究-小原彫塑教室の事例を中心に-
富田 俊明	釧路校	実践研究	へき地における固有の文化・自然環境を素材とした図工・美術教育実践の試み-琉球大学教育学部美術教育講座との研究交流をとおして-

3. HATOプロジェクト(へき地)の進捗状況について

※ H:北海道教育大学 A:愛知教育大学 T:東京学芸大学 O:大阪教育大学

へき研では、本学のHATOプロジェクト採択により、「へき地・小規模校教育に関するプロジェクト」を担うことになりました。次頁のポンチ絵がプロジェクト全体の構想です。

これまでの業務では、すでにへき地校体験実習の推進に伴うへき地小規模校を中心とした学校現場や教育行政との連携を歴史的にも深めてきましたが、今回はプロジェクト採択を受けてより充実した取組にすべく各キャンパスのセンター員と一緒に進めています。

(1) へき地校体験実習の推進(夏期)



8/19(月)～9/30(月)まで全道各地でへき地校体験実習の1週間実習が実施されています。42校に札幌・旭川・釧路の学生99名が参加しています。

釧路校で実施する秋期分(9/30～11/22)を合わせると、今年度は全部で57校127名が参加予定となっています。

7/26に実施した釧路校での「へき地校体験実習」全体指導における大学の実習校担当教員と実習生との打ち合わせの様子

(2) 研究に関する進捗状況

具体的な取組としては、これまで3月に和歌山大学のへき地・複式教育実習フォーラムへの視察や長崎大学附属小学校の複式学級の授業を視察しました。

今年度の研究計画では、現在以下の取組を進めています。

①「複式学級における学習指導の手引」の作成

へき地教育に関する学生の指導書作成にあたっては、札幌・旭川・釧路キャンパスのへき地教育アドバイザーの先生方や北海道立教育研究所の企画・研修部にもご協力いただき編集作業を進めています。

北海道立教育研究所 企画・研修部より2名の講師派遣をいただき、複式教育に関する編集会議を行いました。3キャンパスのへき地教育アドバイザーにも参加いただきました。

7/10に釧路校で開催した編集会議の様子



②複式授業の映像資料(DVD収録)の作成

釧路管内の公立小学校で撮影協力をいただけることになりました。複式授業(算数・中学年)を11月～来年1月頃に撮影し、年度末にかけて撮影記録を編集する予定です。次年度以降、大学内の関連講義や、へき地校体験実習の事前指導等で活用していきます。

③へき地・小規模校教育に関する調査研究

へき研センター員に調査希望を募り、以下の3件の調査研究を実施することになりました。

- ・国内調査については、「沖縄県の離島教育」と「北海道の離島教育」を対象として調査準備を進めています。
- ・海外調査については、「フィンランド」を訪問先として調査準備を進めています。

【プロジェクトの目的】

学生へのき地・小規模校教育への理解を深め、実践現場を体験させることで、地域に生きる教育としての意識を喚起し、もって、北海道の約半数を占めるへき地・小規模校で実践的な教育指導ができる教員の養成を行う。

さらに、学生教育の成果やへき地・小規模校教育に関わる研究の成果を生かし、へき地・小規模校教育に携わる現職教員への支援につなげる取り組みを行う。

プロジェクト研究の柱

へき地・小規模校教育に関する調査研究

- (1) へき地校・小規模校教育に関する指導方法の開発
①「複式教育における学習指導の在り方」に関する指導書の作成
②へき地・小規模校教育の授業の実際を撮影・編集した映像資料の作成
- (2) 国内のへき地・小規模校教育の事例調査（和歌山・長崎・沖縄・鹿児島等）
- (3) 海外のへき地・小規模校教育の事例調査（アラスカ・フィリピン等）

へき地校体験実習の充実

- (1) 「へき地教育アドバイザー」を教員養成3キャンパス（札幌校、旭川校、釧路校）への配置を図るための学生に対する事前事後指導の方法と工夫
- (2) 北海道内における教育実習先の新規開拓

へき地・小規模校教育に関する研究交流の促進

- (1) へき地・小規模校教育に関する研究会等の実施（複式授業の工夫、少人数指導の工夫、異学年交流の在り方、集合同学の在り方）
- (2) 他大学との研究交流の促進
- (3) へき地・小規模校教育に関するシンポジウムの実施（実習校・行政・地域・大学等）

【年度別の主要研究計画】

H24年度

- (1) へき地・小規模校教育に関する国内の先進事例の予備的調査
- (2) 学生指導に必要な学習環境整備

H25年度～H27年度

- (1) 「へき地教育アドバイザー」を教員養成3キャンパス（札幌校、旭川校、釧路校）への配置
- (2) 「へき地校体験実習」の充実を図るために学生の事前事後指導や、教育実習先の開拓
- (3) へき地・小規模校教育に関する調査研究
①日本国内のへき地・小規模校教育の課題と対策方法に関する調査
②海外のへき地・小規模校教育の課題と対策方法に関する調査
- (4) へき地校・小規模校教育に関する指導方法の開発
①実習の充実を図るための「複式教育における学習指導の在り方」に関する指導書の作成
②へき地・小規模校教育の授業の実際を撮影・編集した映像資料の作成
- (5) へき地・小規模校教育に関する研究会等の実施と他大学との研究交流の促進